

夏休みが終わり、二学期が始まりました



大日向 学校新聞

第十九号
発行元
学校法人茂来学園
大日向小中学校

校長だより (小学校校長 久保 礼子)



◎あつという間に季節が秋へと向かっています。

夏休み中も学校に集い、校庭で遊んだり、川で遊んだり、サマーキャンプを楽しんだりした子どもたちもたくさんいました。その記憶が思い出になっていく季節の変わり目ですね。

二学期に入って今、子どもたちが頑張っているのは、「わた

しプレゼン」と私たちが呼んでいるものです。一般的には三者面談と言われるものなのですが、主役は子ども自身。一学期からこれまでに自分が学んだこと、頑張ったことなどを、お家の方と、先生とに発表する会です。

「こんな物語を書いて、友達にも好評だった」と披露してくれたり、「算数の繰り下がりのある筆算が難しいけれど挑戦中です」と計算して見せてくれたり、それぞれ工夫して発表します。最後に担任の先生から、学校での頑張ったことや、できるようになったことなどが書かれたいわゆる通知表を受け取って、これからの目標を確認して終わりです。

かなり慣れてとつても嬉しそうに発表する子、初めてのことですっかり緊張して思うように発表できなかった子など、様子はさまざまです。でも終わった

後は、みんなホッとして、お家の方と楽しそうに帰っていきます。我が子の成長を喜んでくださる言葉を保護者の方からいただけること、私たち教職員もすごく嬉しい気持ちになります。そして改めてまた頑張ろうと気持ちの引きしまる時でもあります。

◎大日向小中のプルーン畑 収穫真っ盛りです。

学校としてお借りしているプルーン畑では、アリーリバーから始まり、オパール、ツアー、くらしま・・・と続き、そして今はサンプルーンの収穫がスタート。

夏休みの間も、担当職員、保護者ボランティアからなるプルーンチームが、暑いなか熱心に作業してくれ、とても美味しいプルーンに育っています。町の駅に置いていただいたり、学校のお昼ご飯に使ってもらったり、注文いただいたり、日本各地へ配送され「美味しかった!」と感想をいただいたり、プルーンを通して、とても豊かな気持ちにさせてもらっています。今月は、中学生も小学生も畑で実際に収穫する学習が企画されています。生で食べるプルーンの美味しさを知っている大日向小・中の子どもたち、皆その日を楽しみにしているようです。

